

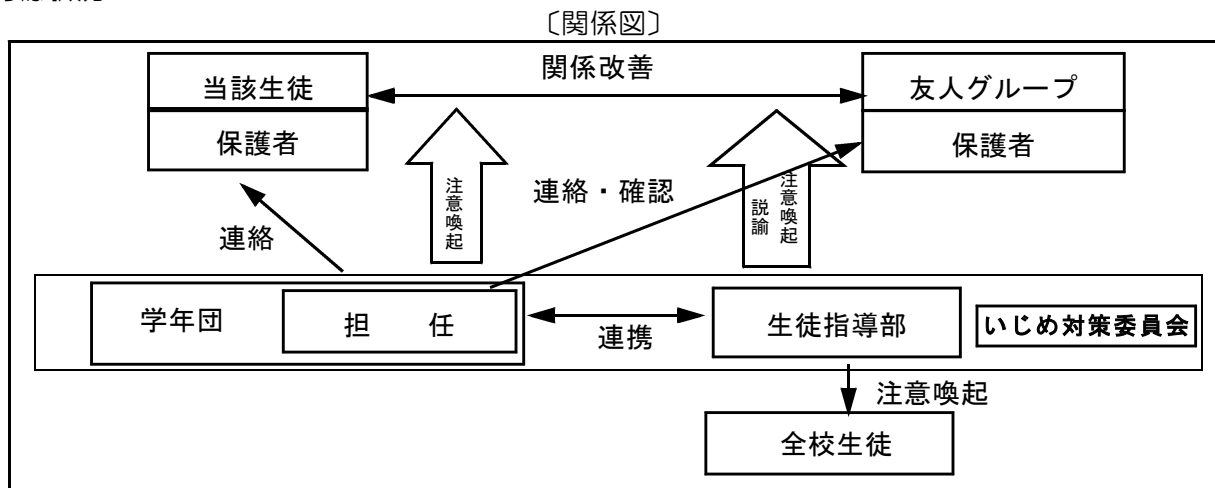
認知したいじめを速やかに解消した事例11（高等学校第1学年女子）

～SNSのグループからの仲間はずれの解消と再発防止に向けた対応～

問題の把握

当該生徒が、SNSのグループを構成していた同じクラスの友人6人から、仲間はずれにされていると、他の生徒から担任教諭が情報提供を受けた。担任と生徒指導部が中心となり、いじめの状況確認と解消に向けた取組を進めた。

対応状況



〔対応の経過〕

○状況の把握

- 担任教諭及び生徒指導部教員が役割分担し、当該生徒とともに、友人グループの生徒から個別に状況を確認し、SNSのグループからの仲間はずれが起こった原因が、**宿泊研修での当該生徒の友人間の対応に不満を抱いた**ことであることがわかった。

○解消に向けた取組

- 当該生徒及び友人グループの保護者に状況を伝え、SNSのグループからの仲間はずれによるいじめの事実を伝えるとともに、SNS等の利用方法に不適切な状況があったことを伝えた。また、友人グループの保護者には、担任教諭及び生徒指導部教員から生徒に対して、注意並びに説諭の指導を行うことを伝え、同意を得た。
- 友人グループの生徒6人に対して、個別に注意及び説諭を行った。
- 当該生徒及び友人グループの生徒6人に対して、**お互いの思い込みや勘違い**が関係を悪化させていたことを確認し、特に**ネット上でのコミュニケーションの特質を踏まえたコミュニケーションの在り方**に関する注意喚起を行い、SNSのグループからの仲間はずれを5日で解消させた。

○再発防止に向けた取組

- いじめの解消後も、担任と学年団の教員を中心に当該生徒と友人グループとの人間関係について、注意深く観察し情報を共有するとともに、生徒指導部から全校生徒に対して、SNS等の適切な利用に関する注意喚起を継続して行う。

いじめの問題を速やかに解消するためのポイント

- 児童生徒からの情報提供を受けた後は、速やかに事情確認を行い適切な状況把握を行うこと。
- 児童生徒に対する指導や対応の内容について、保護者に確実に周知し、同意を得ること。
- ネット上でのコミュニケーションでは、誤解や勘違いが関係を悪化させることを、加害・被害の双方に理解させた上で、指導・注意喚起を継続して行うこと。